

建築文化週間2014

主催：日本建築学会

後援：日本建築家協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、
日本建設業連合会

協賛：大林組、鹿島、清水建設、大成建設、竹中工務店、東京ガス、東京メトロ、
日建設計、日新工業、日本設計、三菱地所設計、NTT都市開発、
NTTファシリティーズ、LIXIL住生活財団

問合せ：日本建築学会事務局 教育・普及事業グループ 三島

TEL 03-3456-2056 E-mail mishima@aij.or.jp

本部企画

建築夜楽校 2014

「東京オリンピック2020から東京を考える」

東京オリンピック2020を建築的、都市的それぞれの視点から読み解きながら、東京そのものについても考える。第1夜目は、建築的視点からオリンピックと東京を考える。新国立競技場計画は、国際コンペのあり方から巨大建築物の更新と景観・環境・歴史の関係にいたるまで、実に多くの問題点を提起した。立場の異なる複数の視点から総合的な議論を展開することで、新国立競技場論を、オリンピック東京論へと接続させていく。第2夜目は、都市的視点からオリンピックと東京を考える。オリンピック後の本格的なグローバル競争に向けて、東京はどのような政策を打ち出し、建築家や専門家はどのようにそれに答えるべきか。オリンピック以後を見据えて東京の将来像を議論し、建築家、専門機関、非営利職能団体の役割を討議する。

第1夜：「新国立競技場の議論から東京を考える」

日時：10月1日（水）18:00～20:30（開場 17:30）

登壇者：榎 文彦（建築家、榎総合計画事務所代表）

内藤 廣（建築家、内藤廣建築設計事務所代表、東京大学名誉教授）

青井哲人（建築史家、明治大学准教授）

浅子佳英（建築家、インテリアデザイナー）

コメンテーター：

五十嵐太郎（建築批評家、東北大学大学院教授）

モデレーター：

松田 達（建築家、東京大学助教）

会場：建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）

定員：300名

申込み：満席となりました。

当日は、動画配信を行うほか、建築会館イベント広場を臨時会場として、大型スクリーンに動画配信映像を投影いたします。

動画配信：<http://www.aij.or.jp/index/?se=sho&hid=923>

パブリック・ビューイング「建築夜楽校第1夜：新国立競技場の議論から東京を考える」

会場：建築会館イベント広場

実況：田中元子（mosaki）

解説：森山高至（建築エコノミスト）、松島潤平（松島潤平建築設計事務所）

定員：300名（椅子なし）

申込み：ホームページより申込む <https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=926>

第2夜：「オリンピック以後の東京」

日時：10月9日（木）18:00～20:30（開場 17:30）

登壇者：市川宏雄（都市政策、明治大学教授）

白井宏昌（建築家、H2R architects共同代表）

為末 大（プロ陸上競技選手）

コメンテーター：

中島直人（都市計画、慶應大学准教授）

五十嵐太郎（前掲）

モデレーター：

藤村龍至（建築家、東洋大学講師）

会場：建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）

定員：300名

参加費：無料

申込み：ホームページより申込む <https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=888>

動画配信：<http://www.aij.or.jp/index/?se=sho&hid=924>

関連企画展覧会「東京オリンピック2020から東京を考える」展

日時：10月1日（水）～10月13日（月・祝）10:00～19:00（土日祝日は17時まで）

出展者：楨文彦

伊東豊雄

田根剛（DGT）

森山高至

青井哲人＋明治大学青井哲人研究室

オリンピック選手村代替案（浅子佳英）

オルタナティブ・オリンピック（門脇耕三、谷尻誠、長坂常、永山祐子、

羽鳥達也、松田達、トウキョウ建築コレクション)

NeXtokyo (森俊子、森浩生、藤村龍至、古市憲寿、楠本修二郎、スプツニ子!、梅澤高明)

プロジェクトGDZ (門脇耕三、川添善行、南後由和、藤村龍至、古澤大輔、松川昌平、水野学) ほか

協力：日本スポーツ振興センター (新国立競技場ザハ・ハディオ案および周辺模型提供)

会場：建築博物館ギャラリー (東京都港区芝 5-26-20)

キュレーション：松田達 (前掲)、藤村龍至 (前掲)

入場料：無料

東京ウォッチング2014

「駒沢」

2020年の夏季オリンピック開催地は東京に決まった。東京中心部がオリンピック開催を目指し大きく形を変えつつある中で、今回の東京ウォッチングは1964年東京オリンピックの拠点のひとつとなった駒沢に目を向けたい。

竣工から50年を迎え、前回五輪を第二会場として支えた駒沢オリンピック公園の体育施設も老朽化が激しい。次回五輪ではメイン施設に指定されなかったこともあり、東京都民のスポーツの場、そして憩いの場として駒沢もこれからゆるやかに形を変えていくことになってゆく。

更に駒沢オリンピック公園の周辺には歴史の一端を伺わせる多くの施設の痕跡が残る。その跡地や記憶をたどり、2020年を見通すための補助線を前回五輪の拠点を見ることから考えていきたい。

日時：10月27日 (月) 13:00～17:00

見学対象：

駒沢オリンピック公園 (駒沢陸上競技場、屋内体育館、東京オリンピックメモリアルギャラリー、記念塔等)

講師：小笠原 伸 (白鷗大学経営学部教授／都市論)

中谷 正人 (中谷ネットワークス代表／編集者)

田中 元子 (モサキ代表)

定員：30名 (申込制／応募多数の場合抽選)

参加費：無料

申込み：E-mailもしくは往復ハガキ (1人1件に返信宛名を記入) にて、①氏名、②年齢、③所属、④連絡先住所、⑤連絡先電話番号を明記のうえ、「東京ウォッチング」と標記して、10月15日 (水) 必着で下記宛にお申し込みください (応募多数の場合抽選)。〒108-8414 東京都港区芝5-26-20 日本建築学会「東京ウォッチング2014」係、E-mail mishima@aij.or.jp

カルチベートトーク

「学会賞とは何かー日本建築学会賞受賞建築作品集1950ー2013の刊行記念」

日時：9月26日（金）18:30～20:30

会場：建築書店（東京都港区芝 5-26-20）

登壇者：古谷誠章（早稲田大学教授）

大森晃彦（建築メディア研究所）

倉方俊輔（大阪市立大学准教授）

モデレーター：

五十嵐太郎（東北大学教授）

申込み：ホームページより申込む <https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=928>

学生ワークショップ2014

「shrinking Japan, expanding Architecture – 21世紀型建築学生セッションー」

私たちは今新しい建築の時代を前にしている。最早「建築」はかつての領域にとどまらず、新しい「建築の職能」が萌芽しはじめた。それは建築であるのか。建築ではないのか。無垢である学生だからこそ、この境界を模索し、自分の建築観を純粹に確立していくことが出来る。この会の趣旨は、「今後の建築界を担うまだ何者でもない学生が、建築にとどまらず様々な分野で活躍するクリエイター(POST-ARCHITECT)と共に様々な来訪者と、これからの建築とは何かを考えること」である。

建築会館の広場を中心に全国の学生団体がそれぞれの活動録と共に、建築の明日を表現し、【POST-ARCHITECT】に投げかけ、語り合う。全国各地の色と様々な分野の色がトークイベントやワークショップにより混じり合い、それぞれの建築観を可視化させる。それらが48時間を通して田町に凝縮し、そしてイベント後、距離的にも、分野的にも全国に拡散していく。

建築は我々が活動するすべてに添えられる。建築をもっと身近に。

日時：9月27日(土)～28日(日)

会場：建築会館イベント広場、建築博物館ギャラリー（東京都港区芝 5-26-20）

概要：全国の建築学生団体による活動展示（建築学生団体の過去・現在）やトークイベント（建築学生団体の未来）

POST-ARCHITECT×建築学生団体のコラボによるワークショップ・トークイベント

交流イベント

ゲスト：豊田啓介（Noiz Architects）

齋藤精一（ライゾマティクス）

松田 達（東京大学助教）

田中元子（mosaki 代表）

岩岡孝太郎（ロフトワーク）

藤代健介（prsm）

参加団体：

トウキョウ建築コレクション 2015, esquisse, 学生団体 SNOU, 建築学生サークルb, 関西建築サークル#, 広島建築団体 scale, wunit design studio, 富山大学建築サークル ACT, 仙台建築都市学生会議, 卒、15, colors, tonica, wa-k, NAF, デザイン女子 No.1 決定戦 2015NAGOYA, Diploma×KYOTO'15, 北海道組, 東海大学サークル TAC, シアターナイト 2014、大同大学けんけん、前橋工科大学まちづくりサークル『えん』ほか多数

運営：学生 WS2014 実行委員会：熊倉(東京理科大学大学院)、吉備(神戸大学)、小畑(東京大学大学院)、川村(東京工業大学大学院)、中田(金沢工業大学)、岡田(東京理科大学)、櫻井(日本女子大学)、白石(椋山女学園大学)、吉田(椋山女学園大学)、福田(東京理科大学)、城戸(近畿大学)、陣(名古屋大学)、川崎(東北大学)、納富(宮城大学)、寺田(東北大学)

問合せ：学生 WS2014 実行委員会 studentws2014@gmail.com

詳細は、ホームページ参照 URL：<http://studentws2014.com>

学生グランプリ2014**「銀茶会の茶席」**

日本建築学会では、実際に使用される建築物を設計、制作する機会を建築を学ぶ学生の皆さんに提供する。ここでは全銀座会からの依頼を受け、10月に銀座通り周辺で開催される「銀茶会」*の中で実際に使用される創作茶席の設計・製作案を募集する。設計課題等の授業のように設計した課題に対して講評を受けるだけに留まらず、依頼者のために誠意ある提案を行い、設計者に選定された場合は責任をもって実施設計と製作を行う。これらの経験を通じて、同世代の仲間との交流や建築のおもしろさ、難しさを是非体験してもらいたい。

*「銀茶会」は、年に一度、銀座通りの周辺にお茶席を設けて行われる野点大茶会である。当日は、表千家、裏千家、武者小路千家、江戸千家、遠州流茶道の五流派のお茶席のほか、点茶の体験コーナーがあり、2014年で13回を迎える。2009年から、学生の設計・製作による創作茶席を展示・使用している。

第二次審査：10月8日(水) 14:00～16:00 (建築会館イベント広場にて公開審査)

※当初の開催日を変更しておりますのでご注意ください。

銀茶カフェ：10月20日(月)～11月1日(土) (入選作品関連展示 於：ART FOR THOUGHT 銀座 8-10-4 和孝銀座 8 丁目ビル 1F)

銀茶会：10月26日(日) (実施作品展示 10月23日(木)～10月27日(月) 於：東京 銀座三越新館 9階テラス)

支部企画

●北海道支部

函館の歴史的建造物の見学「建築探訪～函館市」

建物の歴史と継承された文化を感じ、函館の歴史的建造物としての文化財を地域資源として活用してもらうよう普及啓発する。

主催：日本建築学会北海道支部

共催：函館の歴史風土を守る会

後援：北海道建築士会函館支部

日時：10月11日（土）10:00～16:00（9:30 函館市地域交流まちづくりセンター集合）

見学先：ロシア領事館・高龍寺・太刀川家住宅／店舗・中華会館・旧函館区公会堂・東本願寺・函館八幡宮・五稜郭奉行所等

講師：吉村富士夫、外部講師2名

応募条件・定員：応募条件は問わない、バス移動のため定員30名。

参加費：無料（資料代・保険料等は学会北海道支部負担、昼食・雨具などは各自持参）

申込み：10月3日（金）までに、氏名・年齢・所属・住所・電話番号を明記し、葉書かファクシミリ、またはEメールで下記へ申込み。

〒041-0836 北海道函館市山の手3-20-1、吉村富士夫

TEL/FAX :0138-51-4213 E-mail : hakodateyosimura@yahoo.co.jp

地震防災体験学習－地域で進める防災対策－

寒冷地という特質をふまえた避難所の運営研修を実施し、地域の防災力向上を図る。

主催：日本建築学会北海道支部

共催：厚真町

後援：北海道

日時：10月4日（土）

場所：厚真町

対象：地域住民，行政職員，建築学会会員

プログラム：

- 1.災害，避難の話
- 2.ハザードマップの話
- 3.避難所運営の話
- 4.避難所運営研修（北海道版 HUG）
- 5.避難所体験
- 6.非常持出し品の紹介

申込み・問合せ：

北海道大学大学院工学研究院建築環境学研究室 森 太郎

〒060-8628 札幌市北区北 13 条西 8 丁目
TEL : 011-706-6250 FAX : 011-706-7828
E-mail : mori.taro@eng.hokudai.ac.jp

第 39 回北海道建築賞（2014 年度）表彰式・記念講演会

2014 年度第 39 回北海道建築賞を受賞された方々に、受賞作品を語っていただき、その後、パネルディスカッションを開催する。

主催：日本建築学会北海道支部
日時：10 月 24 日(金)18:00～20:30
場所：北海道大学遠友学舎（札幌市北区北 18 条西 6 丁目）
定員：80 名
参加費：無料
申込み：直接会場へ
問合せ：日本建築学会北海道支部
TEL 011-219-0702 FAX 011-219-0765
E-mail : aij-hkd@themis.ocn.ne.jp
詳細は、北海道支部ホームページ参照 <http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>

●東北支部

「災害に強いまちづくりシンポジウムー被災地からの発信ー」

主催：日本建築学会東北支部、災害委員会
日時：10 月 28 日（火）13:00～16:30
場所：仙台市内
対象：市民向け
定員：180 名
参加費：無料
内容：地震動、被害統計、地盤・基礎の被害、建物被害、非構造部材の被害、建築設備の被害、津波被害、被災後対応、復興計画
申込み・問合せ：東北支部
仙台市青葉区上杉 1-5-15 日本生命仙台勾当台南ビル 4 階
TEL : 022-265-3404 FAX : 022-265-3405
E-mail : aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp
詳細は、東北支部ホームページ参照
<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

●関東支部

見学会「旧清水家住宅書院と五島美術館茶室ー明治期の和風住宅を見る」

世田谷区二子玉川付近は大規模な開発が進む一方で、貴重な歴史的建造物の保存活用

も行われている。明治期の近代和風建築の保存・活用事例として、旧清水家住宅書院と五島美術館古経楼を主な対象とした見学会を開催する。

主催：日本建築学会関東支部

日時：10月15日（水）13:30～16:00

会場：旧清水家住宅書院（世田谷区玉川1-16 世田谷区立二子玉川公園）
五島美術館古経楼、富士見亭（世田谷区上野毛3-9-25）

参加費：無料

定員：50名（申込先着順）

案内者：関雅也（清水建設）ほか

申込み：関東支部ホームページから申込み <http://kanto.aij.or.jp/>

第20回 構造デザインフォーラム

「オリンピックとワールドカップをめぐる大空間の構造デザイン」

1995年から始まった構造デザインフォーラムは今年で20回目を迎え、今年度も建築文化週間の一環として開催する。20周年企画として、「オリンピックとワールドカップをめぐる大空間の構造デザイン」と題し、オリンピック施設やサッカースタジアムについて議論を交わす。テーマは「構造形態」「建築形態」「環境と機能」など、様々なテーマについて、建築学会という中立的な立場を生かして、学生と社会人との協働によりプレゼンテーションを行う。本企画はAND展2014(11/14～21)のメイン企画としており、当日の発表だけでなく、中間報告会での講評なども企画展示する予定である。

主催：日本建築学会関東支部構造専門研究委員会

日時：11月15日（土）15:00～18:00

会場：建築会館会議室

定員：80名（申込先着順）

参加費：学生500円、一般1,000円

司会：中村 伸（構造専門研究委員会 WG-D 主査／日本設計）

モデレーター：

齋藤公男（日本大学名誉教授）

プレゼンター：

日本大学、工学院大学、昭和女子大学、芝浦工業大学、千葉工業大学、首都大学東京ほか

申込み：関東支部ホームページから申込み <http://kanto.aij.or.jp/>

●東海支部

建築ウォッチング「最先端の減災研究拠点をみる」

2014年3月に完成した名古屋大学減災館は、名古屋大学減災連携研究センターに関わる研究者が最先端の研究を行うとともに、減災に向けた社会連携の拠点ともなる施設で

ある。減災館では、地下の免震装置と屋上の振動実験室によって建物全体を振動実験に用いることができるなど、世界初の試みを取り入れられている。地域でも最も最も安全な建物となっている減災館を見学頂き、非常時に向けた減災について考えて頂ければと思う。

主催：日本建築学会東海支部事業委員会

日時：10月11日（土）9:30～12:00

定員：30名（申込先着順）

場所：名古屋大学減災館

申込み：

- 1) 一般・学会会員の別、氏名、年齢、生年月日、性別、住所、連絡先（E-mailアドレス、またはFAX番号）を明記し、E-mail、またはFAXにて申し込む。これらの情報は、抽選結果の連絡や当日の保険加入手続きのためにのみ使用する。
- 2) 申込先：日本建築学会東海支部
「建築文化週間 建築ウォッチング」係宛
E-mail ; tokai-sibu@aij.or.jp FAX ; 052-261-0251
詳細は、東海支部ホームページ参照 <http://news-sv.aij.or.jp/tokai/>

●北陸支部

子どもたてもの探偵団

主催：日本建築学会北陸支部富山支所

日時：10月11日（土）9:30～17:00

場所：富山市内

参加費：30名程度

建築まちあるきツアー

金沢中心部には様々な建築が現存している。歴史的まちなみや現代の建築が入り交じりながら魅力的な都市空間を造り出している。マップを片手にゆっくりとまちの中を巡り歩く事で、普段気がつかなかった新しい金沢の魅力に気がつくはずである。

2014年は、駅から武蔵、香林坊までのエリアを対象としてまちあるきを行いました。2015年は長町の武家屋敷、せせらぎ通り、にし茶屋街、寺町などのエリアをツアーガイドとともに巡りながら建築とまちなみを楽しむツアーを企画する。

主催：日本建築学会北陸支部石川支所

時期：10月予定

場所：金沢市内（長町、せせらぎ通り、にし茶屋街、寺町等のエリア）

対象：一般成人（小・中学生は保護者同伴）

参加費：無料（昼食代は各自負担）

定員：30名（定員になり次第締切る）

第4回 越前・若狭の建築文化探訪

第2回 福井の地から建築史・建築論研究を考える

記念講演＋シンポジウム「増田友也の思索をめぐって」

現在の福井県は、北の「越前」と南の「若狭」という二つの地域において、それぞれ独自の歴史や伝統、文化を育んできた。また日本海の沿岸部や霊峰白山麓の農山部、あるいは長い冬期の積雪など、自然地勢的・風土的な条件からも独特な暮らしを営んできた土地柄である。こうした福井県の建築文化の多様な様相（かたち）を探訪し、あるいは講演会・シンポジウムなどを通して、新たな創造活動を発信する。

昨年度は、森田慶一『西洋建築史概説』刊行50周年を記念して、京都大学名誉教授・加藤邦男氏を迎えて、記念講演・シンポジウムを開催した。引き続き今年度は、生誕百年を迎えた増田友也（1914～1981）の思索に焦点を当てたい。

主催：日本建築学会北陸支部福井支所

日時：2014年10月25日（土）14:00～17:00

対象：条件なし（中学生以下は保護者同伴）

定員：30～50名程度（原則、現地集合）

場所：アオッサ6階601-A 研修室（JR福井駅前）

プログラム：

主旨説明 白井秀和（支所長、福井大学教授）

記念講演 中村貴志（建築論研究所）

シンポジウム・討論会

懇親会 17:30～19:30（ウエルアオッサ：同館3階、会費5,000円）

申込み・問合せ：福井支所事務局（市川秀和／福井工業大学）

TEL：0776-25-2590（直通）、E-mail：hidei@fukui-ut.ac.jp

詳細は、北陸支部ホームページ HP 参照

<http://news-sv.aij.or.jp/hokuriku/index.htm>

●近畿支部

「東大阪市旭町庁舎(旧枚岡市庁舎)」見学会

東大阪市旭町庁舎は、1964年に枚岡市庁舎として竣工した建物である。設計者は、西澤文隆が所長を務めた坂倉準三建築研究所大阪支所（現・坂倉建築研究所大阪事務所）。設計を担当した所員は、後に著名な建築家となる東孝光である。

坂倉準三は、戦前に近代建築の巨匠ル・コルビュジエのパリの事務所に勤務し、戦後は日本の建築界を牽引した建築家として知られているが、この建物は、そんな坂倉の特徴が大変よく表れている。装飾のない打ち放しコンクリートによるもので、大きな庇を兼ねたベランダにより水平線が強調され、南側と西側の壁面はブリーズ・ソレイユと呼ばれる遮光庇で覆われ、いわゆる屋上庭園が設けられるなど、ル・コルビュジエの作品

を彷彿とさせるシャープで力強いデザインが魅力です。屋内にも螺旋階段やトップライト、旧市会議場など、ダイナミックで変化に富んだデザインが現存している。

2001年には「関西のモダニズム建築 20 選」に選定され、2014年には DOCOMOMO Japan より日本の優れたモダニズム建築として選定された。しかし現在、老朽化などを理由に、解体の危機にある。見学会の開催を通じて、戦後のモダニズム建築の歴史的価値とともに、今後のあり方を考える機会にしたいと思う。

主催：日本建築学会近畿支部（企画：当支部近代建築部会）

日時：10月14日（火）14:00～16:30

定員：30名（申込先着順）

参加費：無料（資料代は実費徴収）

集合場所：返送する参加証にて通知する。

解説：笠原 一人（京都工芸繊維大学大学院 助教）

申込み・問合せ：近畿支部事務局

FAX または E-mail に「氏名、所属先名、連絡先(TEL, FAX, E-mail)」を明記のうえ申し込む。近畿支部のホームページからも申し込める。

TEL:06-6443-0538 FAX:06-6443-3144

E-mail: aij-kinki@kfd.biglobe.ne.jp

詳細は、近畿支部ホームページ参照 <http://kinki.aij.or.jp/>

●中国支部

木造建築における地産木材利用の推進に向けて

森林の CO₂ 吸収・固定機能は地球温暖化を防ぐ効果があるとして注目されている。若い木の多い森林は成長量が多く、高齢な木の多い森林より CO₂ を多く吸収するため、森林を適切に管理し、新陳代謝させていくことが必要である。また、しっかり管理された森林は、土砂崩れなどから私たちの生活を守り、良質な水を供給してくれる。なお、木材の地産・地消は、豊かな環境の創出と地域の活性化につながると考えられる。

一方、2000年の建築基準法の性能規定化により、法規的な問題が解決されて以来、木造建築の技術開発が進められ、その技術を適用した新しい木造建築が登場し始めた。また、公共建築物等木材利用促進法(平成 22 年)が施行され、木造公共建築物が増加している。今後、益々地産木材を活用した建築物が普及・拡大することが望まれる。

そこで、本シンポジウムでは、木造公共建築物の見学会を開催するとともに、中国地方の地域特性を踏まえながら、木造建築物に地産木材の利用に向けて今後の取り組みを議論し、木造建築物の安全性の確保および長寿命化の実現について最新の研究動向を紹介する。

主催：日本建築学会中国支部（企画：建築文化週間シンポジウム 2014 実行委員会）

後援：山口県庁、一般財団法人建材試験センターほか

日時：10月18日（土）、9:00～17:30

会場：一般財団法人 建材試験センター 西日本試験所（山陽小野田市大字山川）

定員：100名（当日先着順）

参加費：無料

プログラム：

＜午前＞木造建築物見学会

＜午後＞シンポジウム

問合せ：山口大学工学部感性デザイン工学科 李柱国准教授

TEL & FAX：0836-85-9731, E-mail：li@yamaguchi-u.ac.jp

詳細は、中国支部ホームページ参照 <http://news-sv.aij.or.jp/cyugoku/>

●四国支部

徳島における建築文化の継承・発展を考える

1960年代、我が国では多くの建築系教育機関が設置されたこともあり、建築デザイン教育が広く普及した。これに呼応するように、都市部で建築を学んだ若き建築デザイナーが地方に渡り、それまでは工務店による設計施工や行政営繕部による設計が中心であった地方の建築にも「建築デザイン」の動きが広がっていった。そして、現代では多くの若手建築家が地方で活躍するようになってきている。この動きは地方の都市や建築にどのような変化をもたらしたのか？これは日本建築史の上で大転換点となる歴史的な事象であり、その評価考察はとても重要である。地方における建築文化は歴史的建造物が中心であり、現代建築についてはあまり論評されることがなかったことも事実である。一方で、建築文化は地域の景観を創り、建築に対する見方を創ることからその発展が大変重要である。地域建築家が半世紀の蓄積を継承し、これからの地域をどのように創造していくのか。本シンポジウムでは我が国の建築文化や地方の建築文化を俯瞰した上で、徳島における建築文化の継承、発展を考える。

主催：日本建築学会四国支部・徳島支所

後援：徳島大学、徳島県建築士会、JIA 徳島地域会、徳島県建築事務所協会、他（すべて未定）

日時：11月29日（土）13：30～17：00（予定）

会場：徳島大学常三島けやきホール（徳島市南常三島 1-1 徳島大学総合科学部 2号館）

定員：250名

参加費：無料

プログラム：

- 1) 基調講演「戦後日本の地方における建築文化の展開」倉方 俊輔（大阪市立大学准教授）
- 2) パネルディスカッション「徳島における建築文化のこれから」
パネラー／話題提供

野々瀬 徹（野々瀬建築都市設計事務所／徳島建築家第1世代）

伊月 善彦（株式会社 moon at.／徳島建築家第2世代）

調整中（設計事務所／徳島建築家第3世代）

コーディネーター：

田口 太郎（徳島大学准教授）

コメンテーター：

倉方 俊輔（大阪市立大学准教授）

問合せ：日本建築学会四国支部徳島支所事務局：田口太郎

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島 1-1 徳島大学総合科学部地域計画学研究室
室内

TEL / FAX : 088-656-2235 E-mail : taguchi@tokushima-u.ac.jp

●九州支部

長崎港の近代化産業遺産 ウォッチング

九州支部長崎支所では、2014年度建築文化週間の支部事業として、長崎に残る産業遺産について見学会を行う。幕末明治以降、日本の近代化のめざましい動きの中で、長崎は重要な役割を担い、現在も造船、石炭、水産業などとして、近代化遺産は重要な産業の一翼を担っている。こうした産業遺構や建築物はすぐれた建築文化や都市景観を形成しており、現在の世界遺産候補に挙げられており、一般市民の理解を深めることと期待している。

主催：日本建築学会九州支部長崎支所、長崎総合科学大学工学部工学科建築学コース

後援：長崎県、長崎市、長崎県建築士会ほか

日時：10月24日（金）13:00～17:30

場所：四郎ヶ島、ソロバンドック、ハンマーヘッド型起重機、長崎造船所向島第三ドック、史料館

解説：

- ・長崎の産業遺産の見どころ 横川 清（長崎造船所 史料館長）
- ・港の形成と産業遺産 村田明久（長崎総合科学大学教授）
- ・クレーン、ガイデリックの大トラス構造 薄 達哉（長崎総合科学大学教授）

定員：50名

参加費：無料（資料頒布）

申込み：FAX または E-mail で、「氏名、勤務先、年齢、住所、電話番号、E-mail アドレス」を明記して、9月30日（火）までに下記宛に申し込む。申込多数の場合は抽選。

〒851-0193 長崎市網場町 536 番地 長崎総合科学大学村田研究室気付
日本建築学会長崎支所宛

E-mail : MURATA_Akihisa@NiAS.ac.jp FAX : 095-830-1281